

いよいよ グループ

23

思いやりの心で気張らず

「つくしの会」



△吉原つくして

もっと福祉に関心を持とうと、吉原婦人会の中に「つくしの会」をつくり、15人で歩み出し6年余りになります。

毎月1回、小規模授産施設吉原つくして、障害を持つ皆さんと一緒に紙袋のひもつけ作業をします。一番の楽しみは、15分の休憩時間。持って行ったおやつを、おしゃべりしながらみんなで食べます。もう気心も知れ合い、施設への訪問をみんな楽しみにしています。

また、高齢者介護ホームやすらぎの家も、月2回訪問します。昼食時の介護や世間話の相手などをしますが、おじいちゃんもおばあちゃんもみんな明るく、教えられることがたくさんあります。

私たちがいずれ年をとり、人の世話になることでしょうか。人は、一人では生きられぬことを、活動を通じて強く感じています。これからも会員相互のつながりを深めながら、思いやりの心で気張らずに、長く続けていきたいと思ひます。

問い合わせ 保健婦人センター内
ボランティアセンター ☎64-7100

今、山頂付近が赤く染まった富士山を眺めています。十一月七日、午後四時四十分。
最近天気がいよいよ、赤富士を見ることができま
すがごく短時間。これは
と思うときには、写真を
写します。わずかなシャ
ッターチャンス、あなた
もねらってみてはいかが

こちら編集室

オルガン

個性派の 道具たち

⑦

秋が深まってくると、何となく音楽を楽しんでみたくなりませんか。

「楽器を演奏できることは、ひとつの財産である」の言葉もあります。今回は、楽器の女王とも呼ばれる、オルガンのお話です。



伝法の佐野玉江さんのお宅から、立派なオルガンを、市立博物館に寄贈していただきました。昭和二十九年ころ、上和田町にお住いだっただ音楽の岡田香積先生が、娘さん用にとあっせんしてくださったそうです。

「当時のお金で、四万円だったと記憶してますけれど」。古いのを直しての中古品だったんですよ。私の家で買わなければ、教会で欲しいと言っていたそうです」

このオルガンには、鍵盤の上に十個のストップ装置が取りつけてあります。ス

トップ装置は、引っ張り出すと作動し、押し込むと鳴らなくなる「ノブ」型で、音色や音質を選ぶことができます。

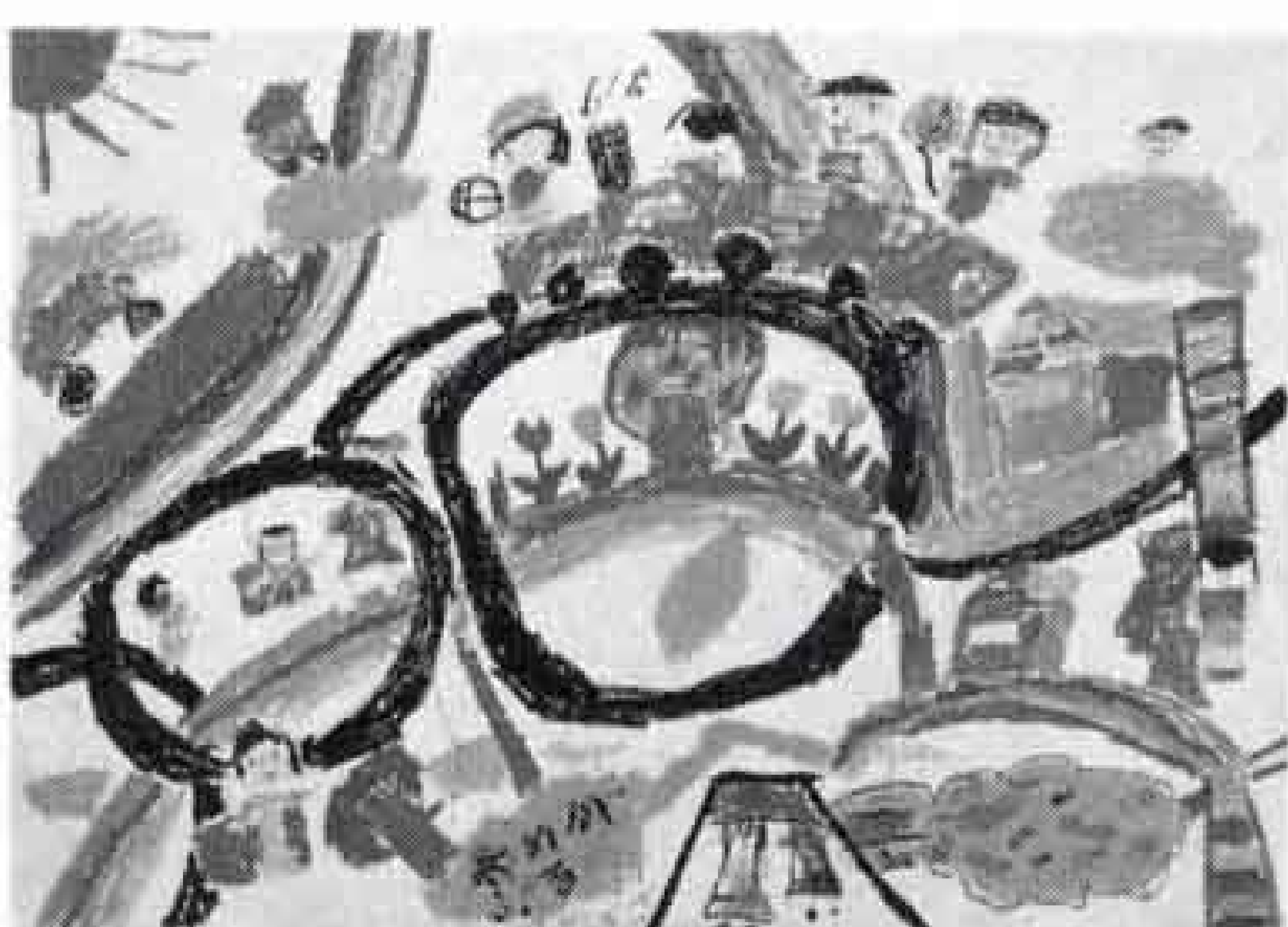
「私は、オルガンを弾けないんですけど、いつだったか片手で童謡を弾いてましたら、外を通りかかった人がとてもいい音色だから一度弾かせてほしい。と、言ってきたこともあります」

寄贈していただく少し前から、オルガンの音が出なくなっていました。博物館では、何とか音を再現しようと、今修理を始めています。直れば、クリスマスコンサート用に貸し出しできるかもしれません。



＜いい音色でしたと、佐野玉江さん

ぼくの作品 わたしの作品



天間小の一年生は、図工の時間にじの国について話し合いました。自分が行ってみたい、にじの国の絵です。

にじのくにへいくと、にじがいくつもいくつも出ているんだよ。二かいや三かいのにじへいくときは、ふんわりくもさんをよべばいいの。みんなもきてね。



やまだ ななえ

わたしは、「おともだちといっしょに、ジェットコースターにのって、なないろのにじのはしをわたったらすてきだな」とおもいながらかきました。



よしの ゆみ